

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】平成 29 年 9 月 7 日 (2017.9.7)

【公表番号】特表 2016-528509 (P2016-528509A)
 【公表日】平成 28 年 9 月 15 日 (2016.9.15)
 【年通号数】公開・登録公報 2016-055
 【出願番号】特願 2016-535419 (P2016-535419)
 【国際特許分類】

G 0 1 M 3/02 (2006.01)

【 F I 】

G 0 1 M 3/02 A

【手続補正書】
 【提出日】平成 29 年 7 月 25 日 (2017.7.25)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 1 4
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 1 4 】

円筒容器 1 2 には、ヘリウム含有率 5 p p m、アルゴン含有率 1 % の空気 2 0 が充填されている。毛管 1 8 からの漏洩速度は、 $10^{-6} \text{ m b a r} \cdot \text{l} / \text{s}$ となる。空気の湿度は、約 4 0 % である。

この構成により漏洩試験器 1 0 における有効ガス流量は、ヘリウムに対して $1 \times 10^{-6} \text{ m b a r} \cdot \text{l} / \text{s} \cdot 5 \text{ p p m} = 5 \times 10^{-12} \text{ m b a r} \cdot \text{l} / \text{s}$ 、アルゴンに対して $1 \times 10^{-6} \text{ m b a r} \cdot \text{l} / \text{s} \cdot 1 \% = 1 \times 10^{-8} \text{ m b a r} \cdot \text{l} / \text{s}$ となる。

なお、本発明は、実施の態様として以下の内容を含む。

〔態様 1〕

気体の充填された容器 (1 2) と、容器壁を貫通する毛管 (1 8) とを備え、該気体中の空気 (2 0) の含有率が少なくとも 1 0 % である、漏洩試験器 (1 0) 。

〔態様 2〕

態様 1 に記載の漏洩試験器 (1 0) において、毛管 (1 8) からの漏洩速度が最大で $10^{-6} \text{ m b a r} \cdot \text{l} / \text{s}$ である、漏洩試験器 (1 0) 。

〔態様 3〕

態様 1 または 2 に記載の漏洩試験器 (1 0) において、前記空気 (2 0) が 5 0 % 未満、好ましくは 4 0 % 未満の相対湿度を有する、漏洩試験器 (1 0) 。

〔態様 4〕

態様 1 ~ 3 のいずれか一態様に記載の漏洩試験器 (1 0) において、空気 (2 0) 中のヘリウム含有率が 3 ~ 7 p p m、好ましくは約 4 . 5 ~ 約 5 . 5 p p m である、漏洩試験器 (1 0) 。

〔態様 5〕

態様 1 ~ 4 のいずれか一態様に記載の漏洩試験器 (1 0) において、空気 (2 0) 中のアルゴン含有率が約 0 . 5 % ~ 約 2 %、好ましくは約 0 . 8 % ~ 約 1 . 2 % である、漏洩試験器 (1 0) 。

〔態様 6〕

態様 1 ~ 5 のいずれか一態様に記載の漏洩試験器 (1 0) において、前記容器 (1 2) が着脱自在の端部キャップ (1 6) を備えた円筒形容器 (1 2) であり、前記毛管 (1 8) が該キャップを貫通して案内されている、漏洩試験器 (1 0) 。

〔態様 7〕

態様 6 に記載の漏洩試験器（ 1 0 ）において、前記円筒（ 1 2 ）がガラス製である漏洩試験器（ 1 0 ）。

〔 態様 8 〕

態様 6 または 7 に記載の漏洩試験器（ 1 0 ）において、前記キャップ（ 1 6 ）が金属製である漏洩試験器（ 1 0 ）。

〔 態様 9 〕

態様 6 から 8 のいずれか一態様に記載の漏洩試験器（ 1 0 ）において、前記容器（ 1 2 ）が 5 c m 以下、好ましくは約 4 c m の長さ、1 c m 以下、好ましくは約 0 . 8 c m の直径を有する、漏洩試験器（ 1 0 ）。